

2014年度 事業報告書

2014年4月 1日から
2015年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

項目	頁
1. 組織体制	1
2. 募金活動	2
3. 総務関係事項	2
4. 施設管理	2
5. 会員関係	3
6. プログラム活動	7
7. 国際文化会館の運営	28

I. 組織体制

A. 理事会・評議員会

2014 年度中に開催された理事会・評議員会は、以下の通りである。

第 1 回理事会	2014 年 5 月 28 日開催（書面表決）
第 2 回理事会	2014 年 6 月 12 日開催
第 3 回理事会	2015 年 3 月 17 日開催

定時評議員会	2014 年 6 月 12 日開催
--------	-------------------

B. 理事・監事・評議員

2014 年度中の理事・監事・評議員の異動は、以下の通りである。

【理事】

(重任) 明石 康	別府 恵子	千野 境子
降旗 高司郎	後藤 乾一	原田 明夫
五百旗頭 真	小林 正美	国分 良成
小松 諄悦	久保 文明	中里 健一
(2014 年 6 月 12 日付)		

(退任) 濱 貴也 (2014 年 6 月 12 日付)

【代表理事】

(重任) 明石 康 (理事長)
降旗高司郎 (常務理事)
中里健一 (常務理事)
(2014 年 6 月 12 日付)

2014 年度末現在の役員数は、理事 13 名、監事 2 名、評議員 19 名である。

C. 職員数

2014 年度中、新規に 3 名を採用した。2014 年度末現在の職員数は 14 名（男性 4 名、女性 10 名）である。

II. 募金活動

A. 助成金・寄付金

2014 年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。

国際交流基金	17、185 千円（千円未満四捨五入）
日米国際金融シンポジウム	13、743
ハーバード・ロースクール	9、574
日米友好基金	5、765
MRAハウス	2、427
渋沢栄一記念財団	1、416
霞会館	300
入会時寄付金	13、250
諸寄附	4、554

III. 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」（2008 年設立）に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。東日本大震災の影響もあり、計画の具体化に停滞がみられたが、一昨年末、事業受託者に住友不動産（株）が加わり、事業推進力に弾みがついてきたこともあって、今秋に向けて基本計画修正案の策定が進んでいる。

IV. 施設管理

メーカーの部品生産終了にあたり、対象となる西館エレベーター3基の更新工事を7月1日～8月6日の期間に行った。また、「ザ・ガーデン」脇テラスの補修工事ならびに「ザ・ガーデン」内天井の吸音工事を、8月12～15日にかけて行った。

V. 会員関係

A. 個人会員

2014 年度は、新規入会が 109 名（日本人 84 名、日本人以外 25 名）あり、昨年度比 5 名減少（日本人 6 名減、日本人以外 1 名増）した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は 135 名（日本人 83 名、日本人以外 52 名）で、昨年度比 14 名減少（日本人 23 名減、日本人以外 9 名増）した。これにより全体として 26 名の会員数の減少（日本人 2 名増、日本人以外 28 名減*）となり、2015 年 3 月 31 日現在、日本人会員 2,059 名と日本人以外 38 カ国（地域）の会員 867 名の合計は 2,926 名となった。

*イギリスから日本への国籍変更 1 名有り

	日本	日本人以外	小計	合計
新入会員	84 (77%)	25 (23%)		109 (100%)
退会	47	13	60 (44%)	
死亡	25	21	46 (34%)	
会費滞納	11	18	29 (22%)	
小計	83 (71%)	52(29%)		135 (100%)
国籍変更	+1	-1		
増減	+2	-28		-26

B. 法人会員

2014 年度の新規入会は 9 法人 10 口で、昨年度比 4 法人 4 口減となった。一方 7 法人 8 口の退会があり、これにより法人会員数は昨年度比 2 法人 2 口増加し、2015 年 3 月 31 日現在、合計 178 法人 209 口となった。

	法人数	口数	昨年度比	
5 口 法人	1	5	0	
4 口 "	1	4	0	
3 口 "	3	9	0	
2 口 "	18	36	0	
1 口 "	155	155	+2	(+2 口)
計	178	209	+2	(+2 口)

C. 優待会員

優待会員は会員の種類から廃止されているため、現会員の離任による後任の登録はない。2015年3月31日現在、優待会員は1名となっている。

D. 図書会員

新規入会者は33名、退会者は31名で、2015年3月31日現在、図書会員は13カ国132名となった。

E. 総収入

2014年度の図書会費を含む会費収入は、¥67,435,025で、昨年度比¥1,586,669増加し、また入会時寄付金収入は¥13,250,000で、昨年度比¥1,950,000増加した。法人会費収入は¥35,812,925で、昨年度比¥509,340増加した。

	2014年実績	予算	2013年実績
個人会員費	¥67,435,025	¥64,000,000	¥65,848,356
入会時寄付金	13,250,000	10,500,000	11,300,000
法人会員費	35,812,925	37,000,000	35,303,585
合計	<u>¥116,497,950</u>	<u>¥111,500,000</u>	<u>¥112,451,941</u>

F. 会員晩餐会

2014年度は、11月26日に特別ゲストとして緒方貞子・国際協力機構(JICA)特別フェローをお招きし、会館との思い出や日中米の現在と今後のあり方についてお話しいただいた。当日は96名の会員が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

G. 新入会員懇談会

2014年度の新入会員懇談会は、5月20日および2015年2月17日に樺山・松本ルームで開催され、5月は37名、2月は28名の新入会員および同伴者が出席した。

個人会員国籍別統計

(2015年3月31日現在)

国籍／地域	計					計	
	2014年 3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	2015年 3月31日	
オーストラリア	28	1	0	0	2	27	
オーストリア	4	0	0	0	0	4	
ベルギー	4	0	1	0	0	3	
ブラジル	0	1	0	0	0	1	
カナダ	34	0	0	0	0	35	**
中華人民共和国	3	0	0	0	0	3	
デンマーク	2	0	0	0	0	2	
エクアドル	1	0	0	0	0	1	
エジプト	1	0	0	0	1	0	
フィンランド	3	0	0	0	0	3	
フランス	10	1	0	0	0	11	
ドイツ	31	2	1	1	1	30	
ガーナ	1	0	0	1	0	0	
香港	1	0	0	0	0	1	
ハンガリー	0	1	0	0	0	1	
インド	7	0	0	0	0	7	
インドネシア	3	0	0	0	0	3	
アイルランド	6	0	0	0	0	6	
イスラエル	2	0	0	0	0	2	
イタリア	7	0	0	0	0	7	
日本	2,057	84	47	25	11	2,059	*
ケニア	1	0	0	0	0	1	
韓国	21	0	1	0	0	20	
マレーシア	4	0	0	0	0	4	
ネパール	1	0	0	0	0	1	
オランダ	7	0	0	0	0	7	
ニュージーランド	2	1	0	0	1	2	
フィリピン	4	0	0	0	0	4	
ポルトガル	1	0	0	0	0	1	
ロシア	2	0	0	0	0	2	
シンガポール	7	0	0	0	1	6	
南アフリカ	1	0	1	0	0	0	
スペイン	1	0	0	0	0	1	
スウェーデン	15	0	3	0	1	11	
スイス	5	2	0	0	0	7	
台湾	3	0	0	0	0	3	
タイ	10	0	0	0	0	10	
トルコ	4	0	0	0	0	4	
イギリス	54	1	1	1	1	51	*
アメリカ	603	15	5	18	10	584	**
ベトナム	1	0	0	0	0	1	
日本人	2,057	84	47	25	11	2,059	
日本人以外	895	25	13	21	18	867	
合計	2,952	109	60	46	29	2,926	

*国籍変更:イギリス→日本

**国籍変更:アメリカ→カナダ

法人会員分布
(2015年3月31日現在)

県／国	5口	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉				1	0	1	2
東京	1	1	2	16	134	154	181
神奈川					1	1	1
富山					1	1	1
愛知					1	1	1
大阪			1	1	3	5	8
岡山							
広島					1	1	1
福岡					1	1	1
茨城							
ドイツ					2	2	2
香港					1	1	1
オランダ					1	1	1
イギリス					1	1	1
アメリカ					6	6	6
合計							
法人数	1	1	3	18	155	178	
口数	5	4	9	36	155		209

VI. プログラム活動

I. 知的対話プログラム

1. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP)

1996年度以来、国際交流基金との共催事業として実施してきたアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP) は、2014年度で19年目を迎えた。ALFPでは、毎年アジア各国から6～7名のパブリック・インテレクチュアルを選抜し、フェローとして2カ月間日本に招聘している。滞日中フェローたちは、国際文化会館で寝食を共にしながら、アジア地域や世界に共通する諸課題について議論する。こうした知的対話を通じてALFPは、地域内ならびにトランスナショナルな理解と協力を促進し、アジアのパブリック・インテレクチュアルおよび日本のカウンターパートとの緊密なネットワーク構築を目指している。2014年度は、7名のフェローを招聘した。現在までに、学界、ジャーナリズム、出版、法律、教育、芸術、NGO（非政府組織）、NPO（非営利組織）など、さまざまな専門領域のフェロー109名が選ばれている。

2014年度は、「The Future of Asia, the World and Humanity after Development and Growth」という共通テーマのもと、フェローたちは9月8日から10月31日まで主として国際文化会館に滞在し、日本を拠点とする学者、ジャーナリスト、芸術家、NGO／NPOリーダーたちとのワークショップ、リソース・セミナー、フィールド・トリップに参加した。プログラムの最後には公開報告会を開催し、共同作業の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表した。

2014年度に来日した7名のフェローとプログラム概要は、以下の通りである。

ヴィシャラチェ・バラクリシュナン／マラヤ大学上級講師
(マレーシア)

イ・ウォンジェ 李 源宰／韓国希望製作所副所長
(韓国)

米良彰子／オックスファム・ジャパン事務局長
(日本)

シクダール・モノアレ・ムルシッド／ダッカ大学教授
(バングラデシュ)

グエン・ヴィエット・コイ／ハノイ国家大学経済大学教授
(ベトナム)

アンベス・オカンボ／アテネオ・デ・マニラ大学准教授

(フィリピン)

マリカ・シャキヤ／南アジア大学助教授

(ネパール)

[ワークショップ]

フェローによるカントリー・レポート (1) (9月9日)

フェローによるカントリー・レポート (2) (9月10日)

フェローによるカントリー・レポート (3) (9月11日)

映画『Words on Water』鑑賞と討議 マリカ・シャキヤ (9月11日)

「Community Education through Mother Tongue for Indigenous People」

シクダール・モノアレ・ムルシッド (9月17日)

「The Contributions of 2014 ALFP Fellows towards Growth and Development」 ヴィシャラチェ・バラクリシュナン (9月18日)

「Turning Point in Life」 イ・ウォンジェ (10月1日)

「Banknotes and Nation」 アンベス・オカンボ (10月16日)

オックスファム吉祥寺ショップ視察 米良彰子 (10月20日)

「都市の持続可能性: 私たちに何ができるか?」 マルコ・クスマウィジャヤ
／都市研究ルジャックセンター・ディレクター、ALFP2009年度フェロー (10月21日)

[リソース・セミナー]

東南アジア・コアセミナー: 「国籍法に象徴されるビルマ (ミャンマー) の排他的国家主義」 根本 敬／上智大学教授 (9月12日)

北東アジア・コアセミナー: 「中台関係安定期における日中関係の展開」 高原明生／東京大学教授 (9月22日)

南アジア・コアセミナー: 「グローバル化する南アジアにおける構造変容: 持続可能、包括的、平和的な開発」 田辺明生／京都大学教授 (9月29日)

「包括的開発のための倫理的貿易」 佐藤 寛／JETRO 開発企画部上席主任調査研究員 (9月18日)

「ラストマイルの人々にシンプルで革新的なテクノロジーを届ける」 中村俊裕／NPO 法人コペルニク共同創設者兼 CEO (9月19日)

「日本のパブリック・ディプロマシー」・NHK ワールド訪問 渡辺 靖／慶應義塾大学教授 (9月30日)

「明かされた未来: 日本における津波被災地の社会学的分析」 小熊英二／慶應義塾大学教授 (10月2日)

「平和と文化：社会的芸術」・丸木美術館訪問 足羽與志子／一橋大学教授
(10月3日)

「日本の多文化主義」セミナー、映画『ハーフ』上映 須本エドワード／ミ
ックスルーツ・ジャパン代表、岡村兵衛／神戸大学大学院 (10月15日)

「茶道を通じての平和を目指す活動とその背景について懇談」千 玄室／裏千
家第15代家元 (10月17日)

新渡戸国際塾塾生およびモーリーン&マイク・マンズフィールド財団フェロ
ーとのディスカッション (10月18日)

[フィールド・トリップ／その他の訪問先]

福岡・長崎 フィールド・トリップ (9月23日～26日)

- 長崎原爆資料館・長崎平和公園・原爆落下中心地見学
- セミナー「長崎をどう教えるか：平和教育の課題」
- セミナー「長崎から見る日本の近代化：外国人居留地とキリスト教信仰の
影響」
- グラバー園見学
- 大浦天主堂見学
- セミナー「3月11日以降の原子力政策」(於：長崎大学核兵器廃絶研究セ
ンター)
- セミナー「コミュニティ主導による高齢社会のデザイン」
- 福岡県70歳現役応援センター訪問
- 大刀洗町役場にて高齢者と農業支援についてのセミナー

[ディスカッション・ペーパー発表会議] (9月12日、9月16日)

フェローが、自身の専門分野や出身国の現状について発表し、日本の有識者
と議論を交わす会議を、国際文化会館で開催した。参加者は、以下の通りで
ある。

足羽與志子／一橋大学大学院社会学研究科教授

足達英一郎／株式会社日本総合研究所 ESGリサーチセンター長

熊岡路矢／日本映画大学教授、ALFP2000年フェロー

ジョン・クラマー／国連大学客員教授

竹中千春／立教大学法学部教授

名和克郎／東京大学東洋文化研究所教授

根本 敬／上智大学アジア文化研究所教授

水野孝昭／神田外語大学教授

2. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラム。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。

2009 年度を最後にフェローの選出が行われていなかったが、2014 年度より、新たな枠組みで年間 1～2 名のフェロー選出を再開した。2014 年度選出されたフェロー候補のうち、オックスフォード大学教授のターリク・ラマダーン氏の招聘を 2015 年度中に試みることを決定した。

本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

3. 日印対話プログラム Japan-India Distinguished Visitors Program

日印平和条約の締結から 60 周年を迎えた 2012 年に、国際交流基金と共催して、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するため、新たな人物招聘事業「Japan-India Distinguished Visitors Program」を立ち上げた。本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間 1～2 名、一週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関の訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

2014 年度は、3 人目のフェローとして、インドの高名な歴史家ラーマチャンドラ・グハ氏を招聘した。グハ氏は 2015 年 3 月 14～20 日に来日、滞日中、国際文化会館での講演のほか、国連大学での講演、日本のジャーナリストやインド専門家との対話などに参加した。

開催日	タイトル	講師・モデレーター
2015 年 3 月 18 日	国家主義と国際主義 ーラビンドラナート・タゴールの政治哲学	講師：ラーマチャンドラ・グハ モデレーター：佐藤 宏／南アジア研究者、『インド現代史 1947-2007』訳者

4. 日米国際金融シンポジウム（ハーバード・ロースクール）

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム（PIFS）との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポ

ジウムは、毎年、日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行う。

第 17 回シンポジウムは、10 月 25～27 日、長野県軽井沢町で開催し、日米から 136 名が参加、以下の 3 つのテーマについて討議した。

- 危機後の対応：規制、制裁、影の銀行の規制—正しい対応か？
- 国際金融センター
- 米連銀のテーパリング、日銀の量的・質的金融緩和と新興市場

II. 人材育成プログラム

1. 新渡戸国際塾

新渡戸国際塾は、企業、NGO／NPO、官公庁、研究機関などの若手職員を対象に、国内外の国際的な現場で活躍できる人材の育成を目的に、2008年度から実施しているもので、2014年度に第七期を迎えた。塾長は明石康（国際文化会館理事長）、コーディネーターは渡辺靖氏（慶應義塾大学SFC教授）。6月から12月まで全14回の講義を行った。また第七期では、平林国彦氏（UNICEF 東京事務所代表）を新たに運営委員として迎えた。

第七期には、書類選考（願書・小論文）と面接を経て、企業（金融、商社など）、官公庁および国際協力団体などから 12 名の塾生（平均年齢 32.5 歳）が選抜された。全 14 回の講義のうち 8 回は一般公開した。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と、一般財団法人 MRA ハウスの助成を受けて実施している。

2014 年度のカリキュラムは、以下の通りである。

回	日時	テーマ	講師など
第 1 回	6 月 21 日	開講式 オリエンテーション	明石 康／塾長 渡辺 靖／コーディネーター
第 2 回	6 月 28 日	『武士道』と日本人 (公開)	山本博文／東京大学史料編纂所教授

第3回	7月12～13日 (奈良)	日本の国際交流— その原風景に触れ る	森本公誠／東大寺長老 (「聖武天皇の選択」) 大野玄妙／法隆寺管長 (「聖徳太子が目指した共生の和」) 河瀬直美／映画監督 中野聖子／なら国際映画祭実行委員長 内藤 栄／奈良国立博物館学芸部長
第4回	7月26日	リーダーシップで 一番たいせつなこ と (公開)	茂木崇史／四期生、株式会社 BOLBOP 代表取締役 CHO
第5回	8月10日	中国の行方と日本 の将来の姿 (公開)	丹羽宇一郎／前中国大使、前伊藤忠商 事株式会社取締役会長
第6回	8月23日 於：渋沢史料館	Shibusawa Eiichi and Human Resource Development	渋沢雅英／公益財団法人渋沢栄一記念 財団理事長
第7回	9月6日 ～ 9月7日 三浦海岸合宿	巨視的に考える 2030年の世界 「未来予測」 「2030年のあるべ き世界」	会田弘継／共同通信社特別編集委員 千野境子／産経新聞客員論説委員 渡辺 靖／コーディネーター
第8回	9月20日	インターネット前 提社会の構築 —2030年に向けて (公開)	村井 純／慶應義塾大学環境情報学部 学部長、教授
第9回	10月4日	『祈るだけの平和』 から『創る平和』へ (公開)	明石 康／塾長
第10回	10月18日	The World in 2030: What Will Be the Roles and Expectations of Japan and Asia?	ALFP フェローおよびマンスフィール ドフェローとの対話

第 11 回	11 月 1 日	国連を伝える仕事 (公開)	根本かおる／国連広報センター所長
第 12 回	11 月 15 日	日本の新たな黄金 期—問われる経済、 社会、そして政策力 (公開)	イエスパー・コール／JP モルガン証券 株式会社 マネジングディレクター、株 式調査部長
第 13 回	11 月 29 日	日本が再び世界を リードする日—文 化によるエンパワ ーメント (公開)	近藤誠一／近藤文化・外交研究所代表、 前文化庁長官
第 14 回	12 月 6 日	修了式	

2. 日米芸術家交換プログラム (共催：日米友好基金)

米国の芸術家 5 名が来日し、約 3 カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金 (Japan-United States Friendship Commission) が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978 年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2014 年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

パトリック・ドネリー Patrick Donnelly (作家) (4月より3カ月)

PJ・ヒラバヤシ Patti Jo (PJ) Hirabayashi (和太鼓奏者) (8月より3カ月)

アキム・ンドロヴ Akim Ndlovu (マルチ・ディシプリナリー・アーティスト)

(3月より3カ月)

ミナ・テレサ・ソン Mina Teresa Son (映画監督、メディア・アーティスト)

(6月より3カ月)

ハンス・トゥチュク Hans Tutschku (作曲家) (5月より3カ月)

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJ アーティスト・フォーラム (略称 AF)」(助成：日米友好基金) を不定期に開催している。

2014 年度は、以下の通り 5 回のフォーラムを開催した。

開催日	タイトル	出演者・講師など
5月21日	コンサート「時をかけてー文化的ユートピアへのスローな探検」	パフォーマンスとレクチャー：ハンス・トゥチュク
5月29日	マルチ・パフォーマンス「空飛ぶラジカセ」	企画・構成・出演：AKIM 出演：Afra（ビートボックス）、岩崎麻由（ナレーション）、ケン・パワーズ（パーカッション）、野澤 瞳（ダンス・振付協力）、横山真希（ダンス）、管裕介（ダンス）、濱村圭子（ダンス）、路上ファンク（ドラム：金澤正允、ベース：小林杏理、サックス：宮本直也）、なつみゆず（キーボード・ボーカル）、富澤美与（ライブ・ポートレート）、国廣沙織（書道）、松村宗亮（茶道）
6月27日	リーディング&トーク「この身は水の月の如しー米国人詩人パトリック・ドネリーの日本との邂逅」	スピーカー：パトリック・ドネリー、ステイーブン・D・ミラー（共著者、日本文学研究者、マサチューセッツ大学アマースト校准教授）
9月18日	試写会&トーク「2014年の陸前高田ーミナ・T・ソンのドキュメンタリー映画」	スピーカー：ミナ・T・ソン コメンテーター：クリストフ・トゥニ（日本の都市文化、文学、メディア研究、環境批評／東京大学教養学部グローバルコミュニケーション研究センター特任講師）
10月17日	トーク「Full Circleー日系アメリカン PJ・ヒラバヤシと和太鼓」	スピーカー：PJ・ヒラバヤシ

III. パブリック・プログラム

1. アイハウス・パブリック・プログラム

(1) アイハウス・ランチタイム・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーなテーマについて、わかりやすく解説する時事講演会である。

2014 年度の開催は、以下の通りである。

開催日	テーマ	講師
5 月 23 日	在日ブラジル人から見る日本 —今あらためて『多文化共生』 を考える	アンジェロ・イシ／武蔵大学教授
7 月 4 日	ウクライナ危機とロシア—危 機の背景とその影響を考える	下斗米伸夫／法政大学教授
11 月 11 日	新しい日米間系とアジアの安 全保障	神保 謙／慶應義塾大学教授
2015 年 1 月 28 日	EU はなぜ重要なのか ～ヨー ロッパにおける統合と分離～	田中俊郎／慶應義塾大学名誉教授

(2) japan@ihj

「日本理解の促進」を共通項に開催する講演会で、国際文化会館がこれまで築いてきたアカデミズム、ジャーナリズム、アート、ビジネスなどにおける内外の専門家の協力のもとに実施している。いずれの講演も、基本的には通訳をつけずに英語で行うことが特徴となっている。

2014 年度の開催は、以下の通りである。

開催日	テーマ	講師など
6 月 17 日	日本とアメリカをめぐる人口 問題の課題～経済の観点から	ジーン・エプスタイン／『バロンズ』 誌経済担当編集者 モデレーター：滝田洋一／日本経済新 聞編集委員
9 月 10 日	徳川・明治日本の思想史は、 なぜこれほどに面白いのか？	渡辺 浩／法政大学教授 司会：ベティーナ・グラムリッヒ＝オ カ／上智大学准教授
11 月 4 日	日本の生きた伝統工芸	ニコール・クーリッジ・ルマニエール ／セインズベリー日本藝術研究所研究 担当所長 室瀬和美／漆芸家、人間国宝

(3) 日文研・アイハウス連携フォーラム

京都を拠点に、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援している国際日本文化研究センター（日文研）と国際文化会館の共同プログラムとして今年度新たに立ち上げた。年4回程度、日文研の専任・客員研究員を講師とした講演会を会館で実施することにより、日本研究の最前線を紹介し、日本理解の促進を目指す。

2014年度は、下記の講演会を実施した。

開催日	テーマ	講師
9月19日	妖怪と日本人の想像力	小松和彦／日文研所長
12月11日	越境する「大衆文学」の力ーなぜ中国で松本清張が流行するのか	王 成／清華大学教授、日文研外国人研究員
2015年 2月12日	江戸時代にみるユーモア、パロディ、タブーー浮世絵と春画の社会的意義	アンドリュー・ガーストル／ロンドン大学教授 コメンテーター：矢野明子／ロンドン大学ジャパン・リサーチ・センターリサーチ・アソシエイト

(4) IUCレクチャーシリーズ

主に北米の大学生・大学院生などを対象に、中・上級日本語の集中教育を行う日本語教育・研究機関であるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）、国際文化会館および日本財団の共催事業として2014年度に開始したシリーズ。IUCの卒業生は、日本関係のあらゆる分野で、研究者や政府関係者あるいは実業家として活躍している。本プログラムでは、年2回、IUCを卒業し、現在各界で活躍している専門家を講師に迎え講演会を実施し、留学生や若手日本研究者が集まるための場を創出している。

2014年度は、下記の講演会を実施した。

開催日	テーマ	講師
4月21日	草双紙にみられる化物ー江戸庶民にとって不気味さとはー	アダム・カバット／武蔵大学教授

2015 年 2 月 6 日	雇用の社会史からひもとく 「失われた 20 年」	アンドルー・ゴードン／ハーバード大 学教授
-------------------	-----------------------------	--------------------------

(5) I-House 日本文化講座 Delve into Japanese Culture @ I-House

本プログラムは、日本文化（日本庭園、歌舞伎、墨絵など）についてさまざまな切り口からの講座を行うことで、外国人宿泊者や海外から会館を訪れる方に日本文化に対する理解を深めていただくと同時に、広く日本人の方にも来館いただくことを目的に2014年に開始したプログラム。日本文化を英語で紹介する講座として、東京を拠点に、訪日や滞日外国人向けに日本語や日本文化講座を開催している(有)Kisako Intercultural Instituteとの共催で実施している。

2014 年度の開催は、以下の通りである。

開催日	テーマ	講師
11 月 27 日	The Japanese Garden Speaks to Your Heart : 世界 遺産としての日本庭園観	内山貞文／ポートランド日本庭園ガー デンキュレーター [日本庭園文化・技術 主監]
2015 年 1 月 24 日	Invitation to the Enchanting World of Kabuki : 歌舞伎への 招待	青柳祐美子／東京成徳大学准教授

(6) 東京国際文芸フェスティバル

国際文化会館は、2012年度より日本財団が主催する「東京国際文芸フェスティバル」の一部のセッションを、同財団との共催で開催している。日本財団は、東京をニューヨーク、ロンドン、パリと並ぶ世界の文芸の拠点の一つとして位置づけ、文芸拠点としての日本の文学・文化を世界にアピールするショーケースとして、日本と世界の出版・文芸業界の橋渡し役となるために本フェスティバルを開催している。

2014 年度は、日本財団の事務局の体制変更により休止となった。

2. 特別プログラム

(1) パネル・ディスカッション「日米中韓関係：課題と展望」

日本、米国、中国、韓国を取り巻く東アジア情勢が不安定さを増す中、これらの国々が、相反する利害関係を乗り越え、いかに地域の安定に寄与できるのか。とりわけ、日本に求められることは何か。中国政治の専門家である高原明生氏（東京大学教授）と、日本政治を専門とし、中国、韓国訪問を終えたばかり

りのジェラルド・カーティス氏（コロンビア大学教授）がそれぞれの見解を述べた。

開催日	テーマ	パネリスト
4月16日	日米中韓関係：課題と展望	ジェラルド・カーティス／コロンビア大学教授、高原明生／東京大学教授

(2) 特別対談：河瀬 直美×松岡 正剛「奈良から世界へ」

映画を通して、奈良や日本の美しさを世界に広げようと2010年に始まった「なら国際映画祭」が、9月12～15日に開催されるのに先がけ、対談を実施した。ふるさと奈良にこだわった作品を撮り続け、「なら国際映画祭」を立ち上げた映画作家の河瀬直美氏と、日本と東アジア・世界の今日的課題を奈良から発信する情報誌『NARASIA Q』の総合監修を務めた松岡正剛氏を招き、古くからアジアとの交流が深い古都・奈良から東アジア、そして世界に繋がっていくこと、日本人として継承してきたものを次世代に伝えていくことの大切さについてお話しいただいた。対談の前には、中国の映画監督である趙暉氏が奈良で撮影した、なら国際映画祭制作第一回NARActive作品「光男の栗」（プロデューサー：河瀬直美、60分）の上映も行った。

開催日	タイトル	対談者ほか
4月18日	奈良から世界へ	対談：河瀬直美／映画作家 松岡正剛／編集工学研究所所長 モデレーター：近藤正晃ジェームス

(3) 英文学術書執筆刊行ワークショップ（5月22日）

グローバル人材の育成が盛んに議論されている一方、日本人研究者による論文や書籍はいまだに日本語で執筆されたものが多い。どうすれば英語による発信量を増やせるのか、なぜ英文学術書刊行は重要なのか。そうした点を考えるワークショップが、新潟県立大学、学術出版大手のパルグレイブ・マクミラン社、国際文化会館によって開催された。新潟県立大学の猪口孝学長は「日本人による英文学術書刊行は以前に比べて増加傾向にあるものの、科学・医学・工学など自然科学系の論文に偏っており、人文・社会科学系はごくわずかだ」と指摘。そこで今回は、人文・社会科学分野を中心にスピーカーを迎え、日本における英文学術書刊行の意義と課題について議論した。

スピーカー：猪口 孝（新潟県立大学学長）、ファリデ・コーヒ・カマリ（パ
ルグレイブ・マクミラン社）

パネリスト：大塚啓二郎（政策研究大学院大学特別教授）、加藤淳子（東京大
学大学院教授）、鹿毛利枝子（東京大学大学院准教授）、ケイト・
W・ナカイ（上智大学名誉教授）、ラーシュ・ヴァリエ（駐日ス
ウェーデン大使）

(4) 第2回邦楽サミット『21世紀における日本音楽—未来への提言—』

日本音楽の将来を見据えて具体的な問題点とその解決策を探るため、各分野
の専門家が一同に会し、学校教育における和楽器の導入や専門家養成と教員養
成の強化、グローバル市場に向けたメディアの問題などについて討議する会議
をコロンビア大学中世日本研究所と共催した。

主催：コロンビア大学中世日本研究所

後援：公益財団法人東芝国際交流財団、独立行政法人国際交流基金、中世日
本研究所

開催日	テーマ	
6月15日	21世紀における日本音楽—未 来への提言—	主な参加者：田中隆文（邦楽ジャーナ ル）、町田龍一（新日鉄文化財団）、薦 田治子（武蔵野音楽大学）、藤本 草（日 本伝統文化振興財団）、バーバラ・ルー シュ（コロンビア大学中世日本研究所）、 青木 健（コロンビア大学中世日本研究 所）、高岡 明（玉川大学）

(5) 日仏文化協力90周年記念「2020年の文化外交」

国際情勢が激しく変化し、かつ文化外交の担い手も多様化する世界において、
文化外交の果たす役割が世界的に改めて注目されていることを背景に、今後の
文化外交を考える上での要諦、そして東京オリンピック・パラリンピックを6
年後に控えた日本の可能性と課題について、日本とフランスの専門家と実務家
が議論した。本プログラムは、日仏文化協力90周年を記念して行われた。

共催：公益財団法人渋沢栄一記念財団、公益財団法人日仏会館

協力：アンスティチュ・フランセ日本／フランス大使館

開催日	タイトル	パネリストほか
7月1日	2020年の文化外交	パネリスト：パスカル・ボニファス／IRIS 国際関係戦略研究所所長、ミシェル・フーシェ／フランス国立高等師範学校教授、斎木尚子／外務省国際文化交流審議官 モデレーター：渡辺 靖／慶應義塾大学SFC 教授

(6) 特別シンポジウム『第一次世界大戦と現代世界の誕生』

第一次世界大戦勃発から百年を機に、戦後百年かけて育んだ現代の国際社会について再検証する特別シンポジウムを、公益財団法人サントリー文化財団、公益財団法人渋沢栄一記念財団との共催で実施した。本シンポジウムでは基調講演「第一次世界大戦が今日に与える教訓」「刻印された歴史認識：長い20世紀と第一次世界大戦」（各40分）に続き、パネリスト発表（各15分）、登壇者全員によるディスカッション、モデレーターによる総括が行われた。

開催日	タイトル	講演者ほか
12月12日	第一次世界大戦と現代世界の誕生	基調講演： デイビット・A・ウェルチ／ウォータールー大学教授 中西 寛／京都大学教授 パネリスト： 井上寿一／学習院大学学長 岩間陽子／政策研究大学院大学教授 細谷雄一／慶應義塾大学教授 司会および総括： 五百旗頭 真／熊本県立大学理事長

(7) 朴元淳ソウル市長公開講演会

市民運動家出身の朴元淳市長は、2011年に初当選して以来、市民参加型の行政を掲げ、福祉や環境、再生可能エネルギーに力を入れた新しい市政に取り組んできた。舩添要一東京都知事の招待によって公式訪日を果たした朴市長が、日本人々との対話の場を持つため、早稲田大学小野記念講堂にて講演を行った。なお、朴市長は2000年度アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラムのフェローである。

主催：早稲田大学韓国学研究所、早稲田大学アジア太平洋研究センター
共催：国際文化会館
協力：国際交流基金アジアセンター

開催日	タイトル	講演者
2015 年 2 月 3 日	「疎通」のカーソウル市の新しい「疎通」市政と都市外交	朴 元淳／韓国ソウル市長

3. 出 版

(1) 公益信託長銀国際ライブラリー

2000 年 7 月に設定された「公益信託長銀国際ライブラリー基金」の事業で、前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として国際文化会館が事業を継承している。政治・経済・社会・文化などの日本人著作を毎年 2 冊選定し、英訳・刊行し、広く内外に配布し、国際社会の中での日本理解の増進に資することを目的としている。

選定した著作は、翻訳・編集のうえ刊行し、国内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外 2800 カ所、国内 700 カ所へ無償配布している。

2014 年度の事業内容は、以下の通りである。

【配布】

田中優子著『布のちから：江戸から現在へ』（朝日新聞出版、2010 年刊）の英語版

The Power of the Weave: The Hidden Meaning of Cloth by Tanaka Yuko
翻訳者: Geraldine Harcourt

若松英輔著『井筒俊彦：叡智の哲学』（慶應義塾大学出版会、2011 年刊）の英語版

Toshihiko Izutsu and the Philosophy of WORD: In Search of the Spiritual Orient by Wakamatsu Eisuke
翻訳者: Jean Connell Hoff

三浦展著『第四の消費：つながりを生み出す社会へ』（朝日新聞出版、2012 年刊）

The Rise of Sharing: Fourth-stage Consumer Society in Japan by Miura Atsushi

翻訳者: Dana Lewis

【翻訳・編集・刊行】

樋口和憲著『笑いの日本文化: 「^{おこ}鳥澁」の者はどこへきえたのか?』
(東海教育研究所、2013 年刊)

Holy Foolery in the Life of Japan: A Historical Overview by Higuchi Kazunori

翻訳者: Waku Miller

【翻訳・編集】

今橋理子著『秋田蘭画の近代: 小田野直武「不忍池図」を読む』(東京大学出版会、2009 年刊)

A New Reading of Odano Naotake's "Shinobazu Pond": The Akita Ranga School and the Cultural Context in Tokugawa Japan by Imahashi Riko

翻訳者: Ruth S. McCreery

小倉和夫著『日本のアジア外交: 二千年の系譜』(藤原書店、2013 年刊)

Japan's Asian Diplomacy: The Legacy of Two Millennia by Ogoura Kazuo

翻訳者: David Noble

また、2015 年度に英訳編集刊行される次の図書が選定された。

熊谷奈緒子著『慰安婦問題』(筑摩書房、2014 年)

The Issue of the Comfort Women: The Japanese Responsibility and the Quest for Reconciliation (tentative) by Kumagai Naoko

翻訳者: David Noble

佐藤弘夫著『ヒトガミ信仰の系譜』(岩田書院、2012 年)

Deification in Japan: A Historical Inquiry (tentative) by Sato Hiroo

翻訳者: David Noble

(2) アイハウス・プレス

2006 年度より、出版メディアを通して、①国際文化会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、②海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を実施している。

2014 年度は、以下を実施した。

【翻訳・編集】

国際文化会館新渡戸国際塾編

『新渡戸国際塾講義録 4』（2015 年 6 月刊行予定）

川勝平太著 *The Lancashire Cotton Industry and Its Rivals* (tentative) by Kawakatsu Heita

『日本文明と近代西洋:「鎖国」再考』（日本放送出版協会、1991 年刊）を全面改編して刊行。（2015 年 7 月刊行予定）

翻訳兼編集者：Jean Connell Hoff

(3) 定期・不定期刊行物

各年度の事業内容をまとめた年次報告書（『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*）を会員および関係機関に配布した。また2014年度は、年4回発行の広報誌 *I-House Quarterly*（A4版／16ページ、和英併記）を2～5号まで発行し、各界で活躍する方々へのインタビューや対談記事ほか、会館の講演レポート、今後のプログラム案内、施設イベントなどを紹介した。若い世代にも気軽に手にとってもらい、会館へ実際に足を運んでもらえるよう、各国際機関や文化センター、記者クラブでの配布に加え、向学心の高い30～40代が集うライブラリーや書店、各大学などからも配布した。また、同冊子を起点とし、さらに詳細をウェブサイトで見覧できるよう講演レポートや動画などのコンテンツを充実させた。

なお、これまで会員向けの『国際文化会館会報』および『*IHJ Bulletin*』に掲載してきた講演録は、2014年6月に立ち上げた会員専用のウェブサイトへ移行し、継続的に発信している。

2014年度の刊行物は、以下の通りである。

- A) 英文年次報告書 *Annual Report 59*（2013 年度事業報告、9 月発行）
- B) 和文年次報告書 『国際文化会館の歩み 59』（2013 年度事業報告、9 月発行）
- C) *I-House Quarterly*
 - No. 2, Summer 2014（2014年6月発行）

- ・インタビュー：平尾成志（盆栽師）
「舞台は世界、若き盆栽師の挑戦」
- ・I-House and Me：槇 文彦（建築家）
- ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など
- No. 3, Fall 2014（2014年9月発行）
 - ・対談：河瀬直美（映像作家）× 松岡正剛（編集者）
「奈良から世界へ」
 - ・I-House and Me：テオドル・ベスター（ハーバード大教授）
 - ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など
- No. 4, Winter 2015（2014年12月発行）
 - ・対談：マイク・モラスキー（早稲田大学教授）× 内沼晋太郎（書店B&B オーナー）
「サードプレイスのすすめ」
 - ・I-House and Me：近藤誠一（前文化庁長官）
 - ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など
- No. 5, Spring 2015（2015年3月発行）
 - ・インタビュー：内山貞文（ポートランド日本庭園 技術主監）
「日本庭園の『心』を伝える懸け橋に」
 - ・I-House and Me：緒方貞子（前 JICA 理事長）
 - ・その他 Recent Activities, I-House AtoZ, Program Calendar など

IV. 調査研究プロジェクト

1. 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い人々に参加いただき、毎回ゲストを迎え、インフォーマルな雰囲気の中で懇談を深めるもの。調査研究プロジェクトとして行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定している。使用言語は日本語または英語。

2014 年度は、以下の 3 回の懇談会を開催した。

開催日	テーマ	講師
4 月 9 日	日本への期待：女性の人権の視点から	リーズル・ゲルントホルツ／ヒューマン・ライツ・ウォッチ女性の権利

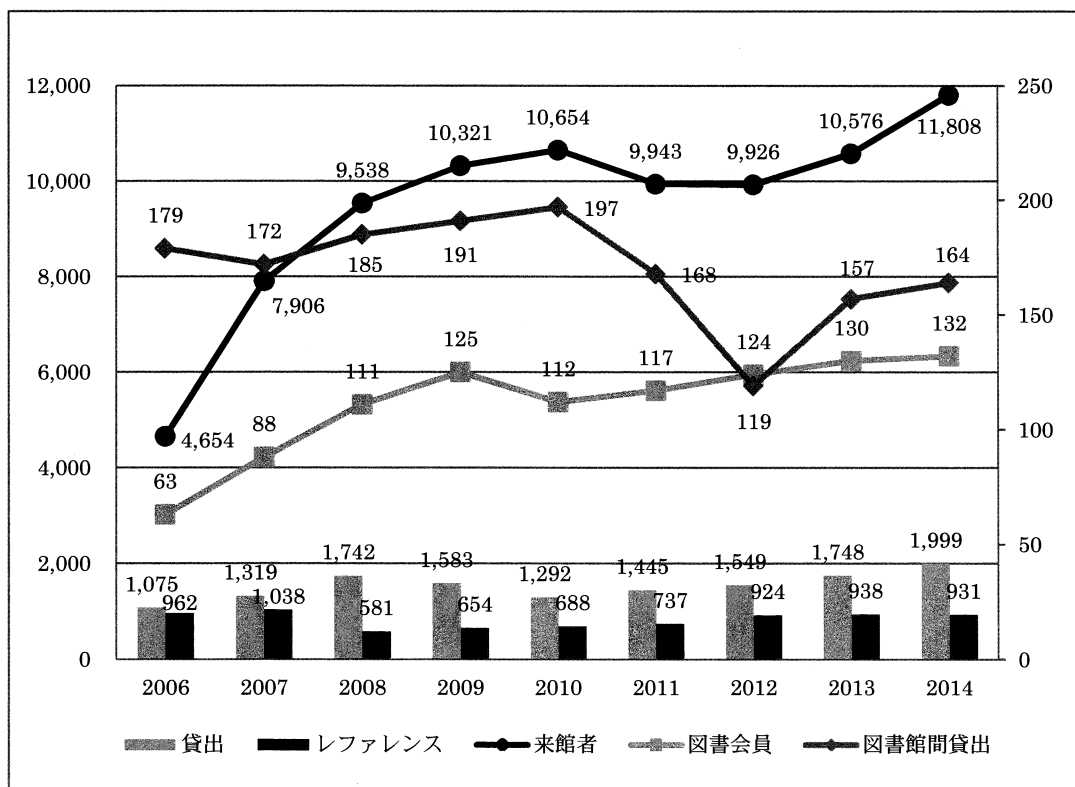
		局局長
6 月 3 日	ワシントンから見た日米関係	グレン・S・フクシマ／米国先端政策研究所（Center for American Progress）上級研究員
2015 年 1 月 13 日	国連改革、とりわけ安保理改革	デイビッド・M・マローン／国際連合大学学長

V. 図書室

1. 通常業務

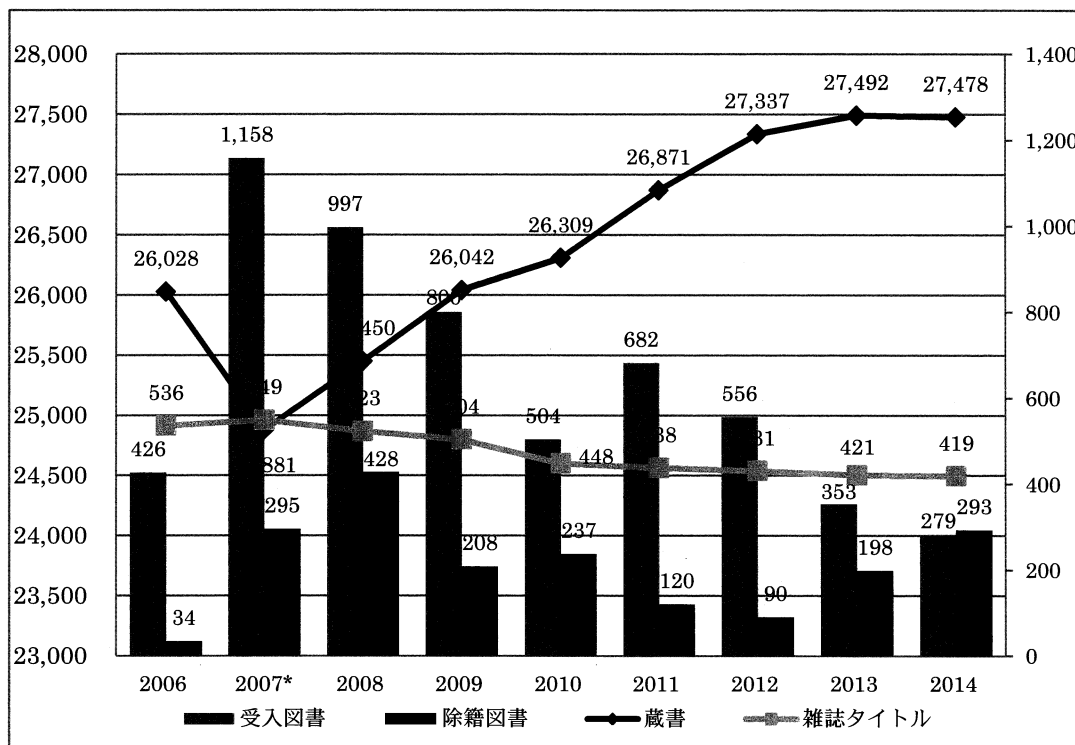
(1) 図書室サービス 2006-2014

貸出冊数は前年比 14 パーセント増加し、来館者数も前年比 12 パーセントの増加があった。



(2) 蔵書管理 2000-2014

2014 年度は、2013 年度に引き続き書籍購入予算の減額のため受入図書冊数の減少があった。また除籍冊数を増加し書棚の空間管理に努めた。



* 2007 年度以降は、図書館システムの LIMEDIO により蔵書数を集計している。

2. その他

(1) 朗読会 Reading about Japan at I-House Library

文学作品を通じて、国際的な視点からみた日本に触れる機会を提供することを目指して、年に数回朗読会を開催している。各回多くの参加があり、図書室広報の役目を果たしている。

開催日	タイトル	朗読者
7 月 3 日	Gerald Visenor reads from <i>Favor of Crows</i>	ジェラルド・ヴィゼナー (作家/カリフォルニア大学バークレー校名誉教授)
9 月 30 日	Sir David Warren reads from <i>The Custom House</i> by Francis King	サー・デイヴィッド・ウォレン (ジャパン・ソサエティ会長/前駐日英国大使)

2015 年 2 月 5 日	Giorgio Amitrano reads from <i>Kafka on the Shore</i> by Haruki Murakami	ジョルジョ・アミトラノ (イタリア文化会館館長)
-------------------	--	-----------------------------

(2) 書籍小展示（共催：日仏会館図書室）

本小展示は、日仏会館図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料を展示した。会期中は、両図書館の会員が相互に訪れ、図書室の利用者増加に繋がった。

開催日	タイトル	展示資料
11 月 5 日 ～ 12 月 6 日	文化遺産としての和食	和食に関する英語資料 (I-House) フランス料理に関する仏語資料 (日仏会館)
2015 年 2 月 28 日 ～ 4 月 3 日	日本における原子力エネルギーに関する英語資料	原子力エネルギーに関する英語資料 (I-House) 原子力エネルギーに関する仏語資料 (日仏会館)

VII. 国際文化会館の運営

2014年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、13,647名の宿泊客を迎えた。このうち、外国人の利用が58%と国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化、知識人の方々が集う施設としての特色をよく発揮している。

会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）

- 夏季宿泊優待券（有効期間：7月～8月）
- 冬季宿泊優待券（有効期間：12月～2015年2月）

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は31,987名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、26,222名に利用された。

宴会キャンペーン

- サマー・パーティープラン（7月1日～9月30日）
- ミーティング&ランチ・プラン（4月～9月）
- IHJパーティープラン（10月1～12月12日）
- ウィンター&スプリング・パーティープラン（12月16日～2015年3月31日）

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、61,985名に利用された。また主食堂のレストラン『SAKURA』は、16,668名の利用があった。

ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント

- お花見ちらし（2014年3月21日～4月6日）
- お花見ローストビーフセット（2014年3月23日～4月6日）
- ハンバーグフェア（2014年5月19日～6月8日）
- カレーフェア（2014年6月20～7月31日）
- ガーデンビアセット（2014年7月19日～8月31日）
- パスタフェア（2014年9月24日～10月31日）
- ハロウィーンディナー（2014年10月29日～10月31日）
- ローストターキーセット（2014年12月23日～12月25日）
- 年越し蕎麦（2014年12月31日）

- おしるこ（2015年1月1日～3日）
- お花見ちらし（2015年3月21日～4月5日）
- お花見ローストビーフセット（2015年3月21日～4月5日）

レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント

- お花見弁当（2014年3月21日～4月6日）
- 夜桜会席（2014年3月28日～4月6日）
- フランス郷土料理フェア（2014年5月19日～6月30日）
- 清涼会席（2014年7月8日～7月21日）
- Chef's Autumn Selection Menu（2014年10月17日～10月31日）
- クリスマス特別メニュー（2014年12月22日～12月25日）
- おせち料理（2014年1月1日～3日）
- 新春会席（2014年1月1日～5日）
- お花見弁当（2015年3月21日～4月5日）
- 夜桜会席（2015年3月28日～4月5日）

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、161,599名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会（4月1日～2日 参加者 191名）
- ガーデン・ビアパーティー（8月1日 参加者 200名）
- 国際文化会館会員晩餐会
特別ゲスト：緒方貞子様（11月26日 参加者98名）
- ワインパーティー（11月20日 参加者 154名）
- クリスマス晩餐会（12月23日～25日 参加者 191名）

いずれの日も会員の皆様およびゲストの方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

サービス活動実績

研究個室

自 2014年 4月 1日

至 2015年 3月 31日

	2013年度	2014年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	12,645	13,647	1,002	107.9%
一日平均宿泊者数	34.6	37.4	2.7	107.9%
外 国 人 比 率	63.3%	58.2%	-5.1%	91.9%
稼 働 率	65.7%	71.3%	5.6%	108.5%
収 入 額	¥123,539,695	¥129,176,340	¥5,636,645	104.6%
一日平均収入額	¥338,465	¥353,908	¥15,443	104.6%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2014年 4月 1日

至 2015年 3月 31日

		2013年度	2014年度	増減	前年比
セミナー室	収 入 額	¥52,966,502	¥59,075,715	¥6,109,213	111.5%
	客 数	28,806	31,987	3,181	111.0%
	客 単 価	¥1,839	¥1,847	¥8	100.4%
会 議 室	収 入 額	¥180,999,318	¥188,406,691	¥7,407,373	104.1%
	客 数	23,480	26,222	2,742	111.7%
	客 単 価	¥7,709	¥7,185	¥-524	93.2%
婚礼手数料	収 入 額	¥98,589,090	¥144,925,905	¥46,336,815	147.0%
	客 数	7,707	11,030	3,323	143.1%
	客 単 価	¥12,792	¥13,139	¥347	102.7%
レストラン	収 入 額	¥90,001,395	¥97,133,416	¥7,132,021	107.9%
	客 数	15,669	16,668	999	106.4%
	客 単 価	¥5,744	¥5,828	¥84	101.5%
ラウンジ	収 入 額	¥97,703,276	¥107,687,209	¥9,983,933	110.2%
	客 数	58,262	61,985	3,723	106.4%
	客 単 価	¥1,677	¥1,737	¥60	103.6%
合 計	収 入 額	¥520,259,581	¥597,228,936	¥76,969,355	114.8%
	客 数	133,924	147,892	13,968	110.4%
	客 単 価	¥3,885	¥4,038	¥154	104.0%
一 日 平 均	収 入 額	¥1,425,368.72	¥1,636,244	¥210,875	114.8%
	客 数	367	405	38	110.4%

付 属 明 細 書

2014年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2015年5月

公益財団法人 国際文化会館